

感染動機

社会学者の宮台真司さんが『14歳からの社会学』という本の中で、学習しようという動機には3つの種類があると書いています。まず一つは「競争動機」で、友達とテストの点数を競い合うとか、より難易度の高い学校に合格するといった動機です。二つ目は「理解動機」で、なかなか理解できなかったことがわかったとか、自分の力で問題が解けたという、わかる喜びとも言えるものです。そして、三つ目の動機が「感染動機」で、これが最も重要であるとされています。「すごいなあ」と思う人の近くにいと、それが感染し、その人に刺激されたり、その人をまねしたりすることで、自分がどんどん成長するのです。競争動機、理解動機は、競争に勝った瞬間、わかった瞬間は、やる気が出ますが、そのときの一時的なものになりがちなのに対し、感染動機は、感染している間ずっと続きます。

私も大学時代に、すごいなあと思う教授や先輩、同級生にたくさん出会いました。世の中にはこんなにすごい人がいるのかと思い、知識、考え方、生き方など、いろいろなことについて影響を受け、教えられ、もっと自分も学ばなくてはと思いました。知的刺激あふれる人に囲まれることで人は成長するのです。

大学受験する人の多くは、いわゆる有名大学を目指します。その理由は、いろいろあるでしょうが、間違いなく言えることは、それらの大学は、全国から優秀な人が受験し、入学しているので、「すごいなあ」と思える人がたくさん集まっています。自分の力がまだ十分ではなくても、そういう人たちに感染させてもらって、次第に大きく成長していくのだと思います。

日頃の学習でも感染動機が重要です。よく受験は団体戦と言われますが、頑張っている友人に囲まれていれば、自分も頑張れます。高い目標や高い意識を持っている人がいれば、自分も同じように高い目標、意識をもてて、それがまた周りに感染します。また、感染動機は、学習だけではなく、部活動、学校行事でも同じです。頑張っている部があれば、クラスがあれば、それに刺激され、影響され、頑張れる。いいことをどんどん感染しあうことが大切なのです。ぜひ、学習・部活動・学校行事、あらゆる面で、いい感染をしあって、お互いの力を高めていってほしいと思います。